

かぜのきざし

2013 MAY

風の萌

特定非営利活動法人(NPO)
在宅ケアを支える診療所・
市民全国ネットワーク機関紙

第022号

2013年5月30日

安心して子育てができ 老いても障がいがあっても 自分らしく暮らすことができる コミュニティーの創造



あつと言う間に、当ネットワーク第19回全国大会in新潟2013も、およそ4ヵ月後となりました。このネットワークの会員の皆様が、相互にエネルギーを分かち合える最も大切な場である実践交流会。より素晴らしいものにできないかと地元実行委員会では1年半以上にわたり話し合い、準備して参りました。

まず、テーマにつきましても、時の変化に対応し、理事会におきまして幾つかのテーマが改新され、今大会の10テーマは(表1)のよ

実践交流会 in 新潟2013

新潟大会 実践交流会担当理事 うおぬま調利グループ 金井 秀樹

沢山の皆様のご発表と発言・提案を

お待ちしております！

うになります。発表時間も10分と少し長くいたしました。是非じっくり実践内容を発表・報告していただきたいと考えております。

また、新潟では、テーマを絞ったポスター発表&テーブルディスカッションと、さらに別項紹介のワールドカフェ形式のケア☆カフェも予定しております。

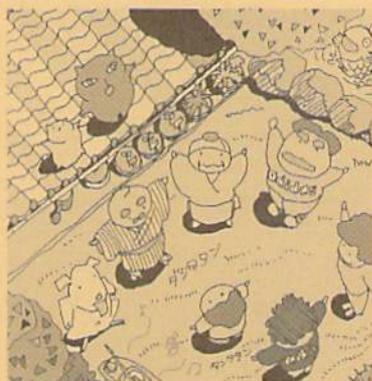
場合によっては、さらにその場で「問い！」や「提案！」を掲示して頂き、仲間とじっくり話し合ったり、仲間から解決策や情報をいただける場を設けたりしてもいいのではないかと計画しております。お出でいただきました皆様全員の「居場所」をと考えております。

なお、今回は、演者の皆様には、座長との間で事前にやり取りをしていたが、当日に一定の方向を目指し

て、報告や話し合いができるように座長の皆様をお願いすることになっております。

これらの新しい取り組みも含め、新潟にいらした皆様が充実した時間を過ごせますよう実行委員一同心よりご祈念申し上げます。

皆様！是非、この1年間の沢山の実践を、ここぞとばかりのエネルギーをもって発表して下さいませう。心よりお待ちしております。何卒、宜しくお願い申し上げます。



(表1) 【実践交流会 新潟大会 10のテーマ】

| | |
|------------------|--------------|
| ① 緩和ケアと看取り | ⑥ ケアマネジメント |
| ② 在宅生活の継続(住宅と独居) | ⑦ 口腔ケアと栄養管理 |
| ③ 訪問&通所サービス | ⑧ 認知症 |
| ④ 小児と子育て支援 | ⑨ 薬と生活 |
| ⑤ 多職種情報共有 | ⑩ 地域包括ケアシステム |

【朱鷺メッセ、メインホール&国際会議場】ではこんな居場所も創る予定です！

- ① ポスター発表&テーブルディスカッション
- ② ワールド・ケア☆カフェ
- ③ 対話、提案、情報収集・交換の場

実践交流会 への発表と発言・提案について詳しくは、冊子「参加登録・演題募集要項」をご覧ください。大会ホームページから投稿できます。

- 大会事務局(問合せ先)
TEL.025-788-0880
E-mail:zaitakunet2013@moegien.jp
- 大会ホームページ内
オンライン演題登録先 (UMIN)
<http://homecare-niigata2013.geo.jp/>

第19回 全国の集い in 新潟 2013

理事会企画

当ネットワークにおいては、毎年の「全国の集い」で「理事会による企画」を行っております。今回も2日目に開催いたしますので、その内容を担当理事より紹介させていただきます。(時間・会場については変更の可能性があります)

第2日目 / 9月23日(月・祝)

Table with 6 columns (01A-01F) and 10 rows of event details including times, titles, and speakers.

Table with 6 columns (02A-02F) and 10 rows of event details including times, titles, and speakers.



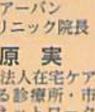
はじめに 全国の集いは、在宅ケアの実践の質向上めざす研修交流の場であり、理事会企画は、NPO理事会の責任の下、在宅ケアのこれからの課題を提言する場です。いま在宅ケアは、ケアを受ける方と家族の思いを大切にしながら、生命は医療の、生活は介護の、多職種スタッフが連携しながらすすめています。その多職種スタッフには、医療・介護の専門職だけでなく、在

2日目 会場・ホテル日航新潟 「朱鷺」 9時〜11時35分 認知症ケアのゆくえ〜認知症の人を地域・多職種で支えるために〜 [司会] 中嶋久矩 (医療法人啓友会 めくみの家)

はじめて、全国の集いは、在宅ケアの実践の質向上めざす研修交流の場であり、理事会企画は、NPO理事会の責任の下、在宅ケアのこれからの課題を提言する場です。いま在宅ケアは、ケアを受ける方と家族の思いを大切にしながら、生命は医療の、生活は介護の、多職種スタッフが連携しながらすすめています。その多職種スタッフには、医療・介護の専門職だけでなく、在

宅ケアを支える福祉行政、生活協、NPO、市民団体や地域の生活の場で支える一人ひとりの市民すべてを含みます。さて、2012年65歳以上の高齢者数が3000万人を超え、内305万人10人に1人が認知症の時代を迎えました。認知症とは「いったん正常に発達した知的機能が、少しずつ低下して社会生活に支障をきたすような状態」を言います。医学的には、そのもととなる病気は約70種あるといわれます。また認知症の状態は、主に物忘れや判断力低下等の認知機能障害と不安や幻覚等の行動・心理症状(BPSD)があり、それらの状態は、長期にわたり、認知症の人の生活を支えるのは介護の役割となっています。(305万人のうち在宅介護149万人居住系介護28万人介護施設89万人医療機関38万

会場 ホテル日航新潟[朱鷺] 時間 イスのみ 570 机あり 300 08:00 NPO 総会 09:00 <理事会企画> 認知症ケアのゆくえ〜認知症の人を地域・多職種で支えるために〜 [司会] 中嶋久矩 (医療法人啓友会 めくみの家専務) [基調講演] 勝又 浜子 (厚生労働省老健局高齢者支援課認知症・虐待防止対策推進室長) [シンポジスト] 岡崎 和佳子 (有限会社薬の花) 遠矢 純一郎 (桜新町アーバンクリニック院長) 荻原 実 (NPO法人在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク) 11:35



2日目
 会場：ホテル日航新潟
 「朱鷺」
 13時～15時30分
地域を再生・共創する
我々は地域と共にある、
地域が変われば我々も
変わる
 特定医療法人フェニックス
 鶴沼中央クリニック
 長縄伸幸
 NPO法人 セカンドリーグ埼玉
 桑原由次

13:00 <理事会企画>
 地域を再生・共創する～我々は地域と共にある、地域が変われば我々も変わる～
 【座長】 長縄伸幸 (鶴沼中央クリニック院長)
 【シンポジスト】 調整中
 B
 15:30



人)「専門性の高い職種ほど認知症老人とのコミュニケーションが下手な人が多い。認知症老人とのコミュニケーションの上手い人は認知症になりにくい。認知症ケアのポイントには認知症老人の生活の中にある。」といわれます。
 最後に、2013年厚生労働省は、認知症施策推進5カ年計画(オレンジプラ

平成6年、在宅医療に関わっていた診療所の医師たちによる「国民のニーズは在宅医療にあり、近い将来必ず在宅ケアが重要視される」との呼びかけから、「在宅ケアを支える診療所全国ネットワーク」が東京で結成されました。以来、黒岩卓夫会長(新潟大会長・現名誉会長)を中心に診療所を基盤とした多職種協働による在宅ケア活動が全国規模で展開されています。平

ン)を発表し、認知症の人が出来る限り住み慣れた地域で暮らし続けるための、地域の認知症支援づくりをはじめました。これからの私たちの認知症ケアの取り組みが、私たちの在宅ケアの真価を問い、「私たちが認知症になっても暮らしやすい街づくり・社会づくり」へとつながっていくでしょう。

成14年には、地域市民との協働活動をめざした「NPO法人、在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク」に進化させ、地域社会との関わりを強く意識し活動しています。やがて、団塊の世代が後期高齢者となる2025年(平成37年)に向けた国家的プロジェクト「地域包括ケアシステム」構想が公表され、2013年(平成25年)より本格的に地域自治体の責任のもとで開始される予定です。この「地域包括ケアシステム」こそ、私ども「ネットワーク」が時代の流れに先んじて市民とともに多職種協働で取り組んできた自助・互助・共助・公助からなる究極的地域社会像そのものであると私は確信しています。昨年(2012年)の「第18回全国の集いin高知」では理事会企画のシンポジウムで今までの活動を総括し、ネットワークの今後の主な事業として地域包括ケアの更なる先進的取り組みを進める事を確認しました。従って、新潟大会のメインテーマとして「地域包括ケア」が大会長に

より複数企画されています。そこで、本大会の理事会企画は、求められる地域のあり方や関わり方を根本的に考えることにしました。在宅医療・在宅ケアが地域に必然的に融合・進展していくには(Smart Ageing in Place)地域や市民がどうすべきか(自助・互助)、行政は地域をどのよう

家族関係の崩壊、子供の虐待、いじめ・不登校・退学、無気力・閉じこもり・鬱・自殺、ニート・パラサイト、貧困・生活保護、孤独死などの社会的負の連鎖を断ち切らない限り、私どもがめざす在宅医療・在宅ケアの飛躍的な普及は望めません。この社会的負の連鎖を断ち切るには周産・乳幼児期から終末期に至る全員がその年代に応じた役割を果たそうとする意識から始まりま

す。世の中には、「一方的に支えなければいけない人」「一方的に支えられるべき人」もいません。人はどのような状況下でも社会に果たすべき役割があり、また、時には人の支えが必要なのです。人間の本性は、肌をふれあい・群れをなして生きていく四足動物なのです。この様な人の原点に翻った「ともに支え合う群れ社会」を皆様とともに再生・共創したいと思えます。人が暮らしていく地域が変われば、我々全国ネットワークのメンバーや地域の医療・介護・行政もさらに変わることができ

オーブン・シティ・ファウンデーション代表で、立命館アジア太平洋大学およびユニバーシティ・カレッジ・ロンドンの客員教授でもある日下部元雄様の基調講演後、自治体代表者、「人とつながる! 地域とつながる!」地域活動を応援します「NPO法人セカンドリーグ埼玉代表者および私ども全国ネットワークの太田秀樹理事を交えて本音で夢を語りたいたいと思っています。

けるのです。

～ 全国の集い、初の企画です ～

ワールド・ケア☆カフェ 開催

全国の集い in 新潟 2013 朱鷺メッセメイン会場にて開催

**一言! 伝えたい! 提案したい! 何が気づきたい!
仲間とじっくり話してみたい! そんな方 大集合!**

新潟では、ワールドカフェ形式のケア☆カフェも開催いたします。

仲間とゆっくり情報の交換できる場を設けてもいいのではないかと計画いたしました。

新潟にお出でいただきました皆様の「居場所」の一つと考えております。

是非、奮ってご参加下さい。

参加申し込みは、大会ホームページ <http://homecare-niigata2013.geo.jp/> から入り、ワールド・ケア☆カフェ参加者募集をクリックしてください。クリックして頂きますと、参加申し込みのページに入ります。

※先着 50 名となりますので、定員になり次第締め切りとなりますことをご容赦下さいませ。

【ワールド☆カフェについて】

ワールド・カフェはアメリカのマーガレット・J・ウィートリーとデイビッド・アイザックスによって1995年に提唱されました。カフェ的な雰囲気の中で、ディスカッション(討議・討論)ではなく、**ダイアログ(対話・会話)**によって、信頼できる多様な仲間と集会的な知恵を見出していこうという手法の一つです。

この二人の提唱者によれば、実は屋外でフォーマルな会議をする予定でした。雨が降りそうだったため、急遽、リビングを会議室に仕立てました。全員揃うまでの間、当然、夫々のテーブルに座っていたメンバーは会話をしていました。そこで、フォーマルな堅苦しい会議と違い、カフェ的な雰囲気のほうが素晴らしいアイデアや知恵が出るということに気づいたのです。そして、そのまま対話を続けたということからワールド・カフェは端を発しています。

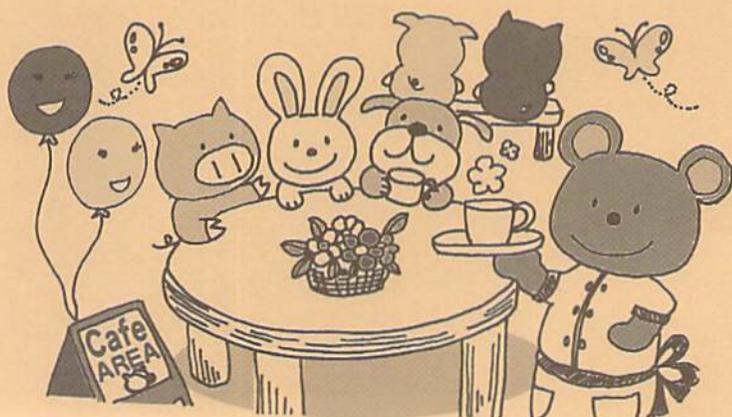
続いて、他のテーブルではどんな対話が行われているのか知りたいということから、途中でテーブルの一人がホストとして残り、他の全員が入れ替わるという手法もここで生まれました。

偶然の産物だった訳です。新潟の大会実行委員会でも「いつ、だれに、どこで看取られたいか!」という「問い!」でワールド・カフェを開催いたしました。時間も忘れ、実に活発な対話が続き、参加者の殆どが満たされた時間を過ごすことができました。そして「自分の死と死に方、死に場所」を考える良いきっかけとなったようです。

是非皆さんも新潟で体験してみてください!
ご応募を心よりお待ちしております!

新潟大会 実践交流会担当理事
うおぬま調剤グループ 金井 秀樹

参考図書: ワールド・カフェ「カフェ的会話が未来を創る」
アニータ・ブラウン&デイビッド・アイザックス著
偲ヒューマンバリュー発行



在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク

全国大会デジタルアーカイブ作成中

現在ネットワーク事務局にて、毎年開催されている「在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク 全国大会 実践交流会」の報告集や抄録集をデジタルアーカイブ化する作業を進めております。

このデジタルアーカイブ化をすることにより、過去に行われた大会の実践交流会の演題をインターネットで閲覧することが可能になります。

閲覧できる対象者はネットワーク会員のみですが、一部の内容は非会員の方でも閲覧できるよう検討しています。

現在デジタル化を進めている大会の内容としましては、第14回京都大会と第15回群馬大会は「抄録集」より、第16回名古屋大会以降は「報告集」より、実践交流会演題内容を抜粋して掲載いたします。

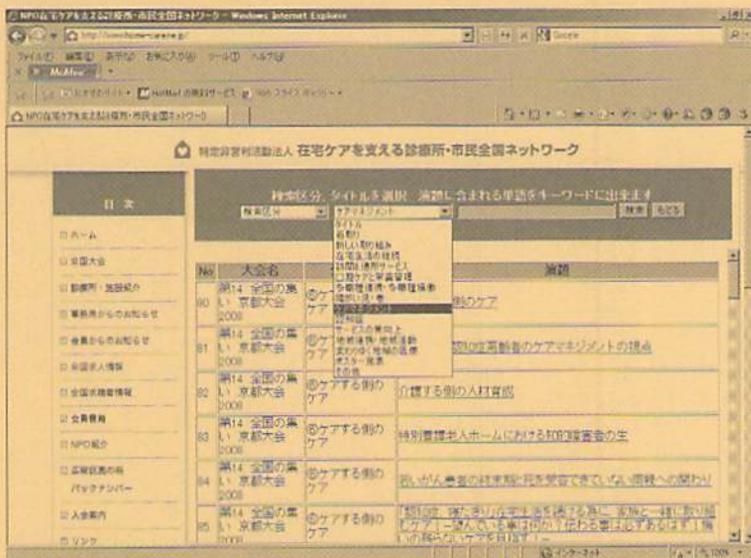
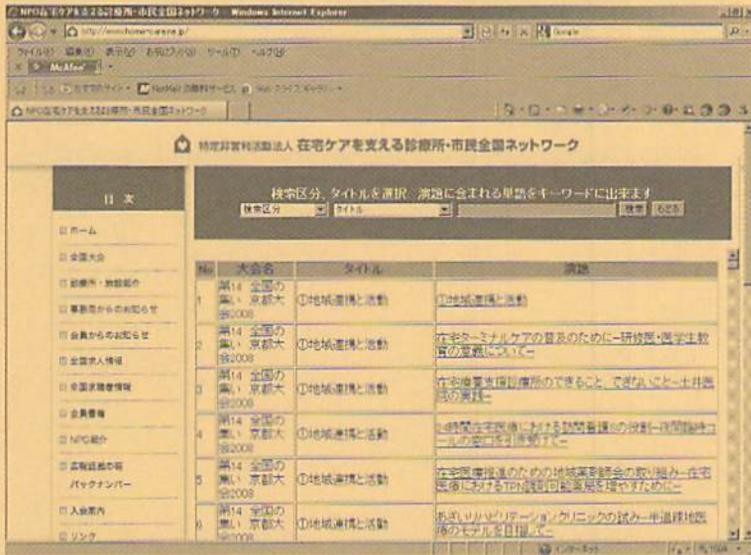
本年度以降に開催される大会の演題も毎年追加掲載する予定です。

デジタルアーカイブ化後、ホームページから公開予定です。

なお、検索機能等も検討しております。

具体的な検索内容といまして、

- 1 各大会(第〇回)
- 2 実践交流会のカテゴリー別
- 3 実践交流会発表のタイトル内キーワード



画像は開発中のものですが、初期画面「画像上」から検索をかけることにより、演題内容を絞り込んで表示することが出来ます「画像下」。

公開は、今年夏頃を予定しております。また、詳細が決まりましたら、ホームページ等でお知らせ致します。

新規購読のご案内

高齢者の住まいと介護・医療を考える 高齢者住宅新聞

2013年新年特大号
平成25年1月5日号

●発行形態/定期購読(タブロイド型) 月3回(5・15・25日)発行
●主要読者層 福祉サービス会社、医療法人、社会福祉法人、介護サービス、福祉サービス、不動産、建設会社、土地所有、設備機器、システム関連、金融関連、自治体ほか
年間購読料 **18,000円**(税込・送料別)

2013年2月より週刊予定

サ付き住宅・有料老人ホームの未来～法改正による影響と介護事業者の取り組みを紹介～

- サービス付高齢者向け住宅ローカルルール特集
開設ラッシュが続くサ付き住宅における主要自治体の規制・ルールを調査
- 都道府県別「有料老人ホーム設置運営指導指針」検証
老人福祉法改正に伴う有老ホームの開設指針を主要自治体ごとに一挙掲載
- 業界再編進むM&A特集
大手企業による新規参入の状況と今後を独自取材
- ヘルスケアリート・投資ファンド特集
有料老人ホーム、サ付き住宅、病院を対象とした不動産ファンドの最新動向を一挙公開
- 介護事業者サービス別ランキング調査
売上高、訪問介護、デイサービス、ショートステイ、訪問看護、小規模多機能型 居宅介護 他

購読お申し込みは右記のいずれかの方法で

TEL **03-3543-6852**
ホームページ <http://koureisha-jutaku.com>
メール info@koureisha-jutaku.com
FAX **03-3543-6853**

株式会社高齢者住宅新聞社 〒140-0061 東京都中央区銀座8-12-15
TEL:03-3543-6852 FAX:03-3543-6853 <http://www.koureisha-jutaku.com>

Mail Magazine

今回は「風の萌」より会員紹介のコラムの2013.3～4月号を掲載いたしました。

この記事は毎月メールマガジンの記事として皆様に配布されている記事の転載版です。(スタイル等は一部変更しています。)メールマガジンでの配信はもちろん「多くの人に」、「迅速な」、配信が目的で、メールの特徴を発揮出来るものですが、現実としてメール配信されている数は「多くの人に」というにはまだまだ充実を計る必要があります。

事務局ニュース2013・3

医師・法人会員活動紹介

在宅緩和ケア普及のための13年間の取り組み

医療法人在和会立川在宅ケアクリニック 院長 井尾和雄

2000年2月に在宅緩和ケア専門の診療所を医師一人、電話番号一人、車一台で開業して13年が経過した。東京都立川市を中心に近隣14市町、人口約200万人の地域を訪問している。現在は常勤医3人、非常勤医1人、訪問看護2人、事務6人体制である。連携してきた訪問看護は30ヶ所以上、介護事業所50ヶ所以上、在宅に取り組む調剤薬局も増加している。皆さんに支えられて2000人を超える患者さんを自宅・施設で

看取ってきた。開業した2ヵ月後に介護保険がスタートしている。介護保険のことを勉強するため2回目のケアマネの国家試験を受けてみた。(まぐれで受かったが更新はしていない。)訪問看護を開業する事業所も増えてきた時期であった。当初から在宅療養には医療、看護、介護の連携が必要であると感じ様々な取り組みを始めた。顔の見える多職種連携「多摩在宅ケアネットワーク」、在宅療養情報発信サイト「在宅ケア.com」、

医療啓蒙講演、一般市民への啓蒙のためテレビ、新聞、雑誌などメディア取材、在宅緩和ケアを解説した本の出版、市民向けの著名人を招いての講演、私の月1回の市民向け講演などを行ってきた。新たに知り組んでいるのは多摩地域の緩和ケア病棟、緩和ケアチーム、在宅緩和ケア、訪問看護、調剤薬局などの医療者の連携「多摩緩和ケアネットワーク」である。また、自然発生的に私の活動を応援してくれるボランティア団体も誕生し、在宅での患者、家族のサポート、市民フォーラム、市民向け講演会の企画・運営、遺族会の企画、運営を積極的に行ってくれている。(感謝!!)この国は「超高齢化多死時代」に突入している、今後40年で6000万人以上が旅立つ、幸せな最期(私の新刊でもある)を自宅で迎えられる人が増えればと願っている。

医療法人在和会立川在宅ケアクリニック

〒190-0002

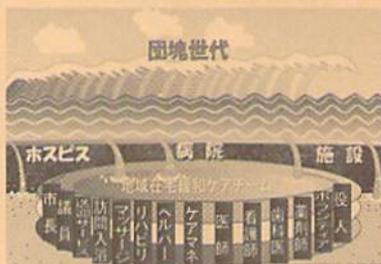
東京都立川市幸町5-71-16

TEL:0427-53344・69664

FAX:0427-53344・69665

E-mail:zaiwa@tzc-clinic.com

URL: http://www.tzc-clinic.com



地域医療者の緩和ケア教育「多摩緩和ケア実践塾」、医師・看護師・薬剤師の研修、見学の受け入れ、地域病院の研修医教育、病院・役所・保健所での在宅

摂食回復支援食

あいと



摂食回復支援食とは… 通常の食事を取ることが難しい方の食べる機能と栄養摂取を支援するための食事です。



お問い合わせ・資料請求の連絡先



イーエ又大塚製薬株式会社

東京都千代田区富士見2-7-2 ステージビルディング13階

お問い合わせ窓口

TEL.03-3515-0170

月曜～金曜 9時～17時(祝祭日、年末年始、お盆を除く)

事務局ニュース 2013.4

医師・法人会員活動紹介

地域包括ケアシステムの実現を目指して

医療法人福嶋医院 理事長 福嶋 啓祐



当院は強化型在宅療養支援診療所(無床)です。医師は常勤3人(内1人は老健施設長)、非常勤3人です。活動の場は、風光明媚な瀬戸内海に面した岡山県南西部の漁師町 寄島町です。寄島町は平成の大合併で近隣の2町と合併し浅口市(人口3万6千384人平成25年2月末現在)になりました。

私は平成4年に父の医院を継承し今日に至っています。地域と時代の要請に出来る形で、介護老人保健施設(入所80人 通所80人)、訪問看護・介護ステーション、グループホーム(ユニット9人)・短期入所生活介護(20人)や障害者のためのデイサービスなどを整備し「ノーマライゼー

ションの街づくり」に取り組んできました。別法人で、介護付有料老人ホーム、アパート、リハビリテーション学院を運営しています。当院の外來患者は60〜90人/日で、訪問診療は50〜60人/月におこなっています。徐々に老人ホーム等への訪問診療の比率が増えています。在宅で最期を迎える人は10〜20人/年です。最近では老健で終末期を過ごされる人が増えており、老健での死亡者は15〜20人/年に及んでいます。

数は約30人です。少子化、単身高齢者世帯の増加から、コミュニティが崩壊しつつある中で、私たちは「皆に優しく、共に楽しく」を基本理念に掲げ、子供からお年寄りまで、暮らす人全員が互いに優しく、楽しく、助け合って生きていける町づくりに向けて、行政や学校・福祉施設等と協働して活動しています。

地域医療の現場では、救急・小児医療の崩壊や独居高齢者の増加による地域ケアなど、多くの問題を抱えています。平成24年4月には、地域包括システムの構築を目指した診療報酬・介護報酬同時改定が実施されました。急性期医療から在宅介護に至るまで、多機関・多職種による切れ目のない医療・介護サービス体制を目指すものです。

そのためには、各専門職が平等な立場で協力・連携していける体制整備が必要です。現在、私が会長を務めている浅口医師会では、浅口介護支援専門員連絡協議会と協力して、岡山プライマリ・ケア学会と岡山県医師会とが推奨

する医療介護連携の為に「連携シート」を「むすびの和」を活用したモデル事業を、岡山県下初の取り組みとして、平成23年度から実施しています。「本人・家族の思いや願いを達成する」ことを目的に、ICFに則って作成された「連携シート」むすびの和の活用が、各専門職の役割の明確化と連携を深めることに役立っています。

また、定期的(年5回)に医療・介護・福祉・保健の専門職による合同勉強会を開催する活動等を通じて連携の強化に努めています。

私は、そのような医師会活動を通して、地域の在宅医療を主に担当する我々診療所が中核となって、地域包括ケアシステムの実現を目指したいと考えています。

ただ、地域医療を共に担う医療専門職、特に看護職員の確保が一層困難になってきており、その対策が望まれます。

医療法人福嶋医院
〒714-0101
岡山県浅口市寄島町3072
TEL:0865-5443177
E-mail: fukukor.jp
URL: http://www.fukukor.jp/

エレクトロニクスで病魔に挑戦

NIHON KOHDEN

わたしたちが、夢の実現をお手伝いいたします。

すべては、医院開業の成功のために。

61A-0294

おかげさまで創立60周年
ヘルスケアの未来を拓く

〒161-8560 東京都新宿区西落合1-31-4
創立/1951年8月
事業内容 / 医用電子機器の開発・製造・販売、医院開業支援

日本光電 医院開業支援 検索

http://www.nihonkohden.co.jp/iry/practice/
E-mail :Kaigyo@mb8.nkc.co.jp

第19回全国の集い in 新潟 2013 上越プレ大会

テーマ ～地域で「食べる」をみんなで支える～

■開催日時

平成25年6月2日(日)
12時45分～16時45分(開場:12時)

■会場

リージョンプラザ上越 コンサートホール
新潟県上越市下門前 446-2

■内容

【基調講演】

- 座長:新潟労災病院 森田 浩さん
上越総合病院内科 合志 聡さん
- 摂食・嚥下リハビリの基礎とリスク管理について
国立国際医療研究センター リハビリテーション科
藤谷 順子さん
- 在宅医療を社会復帰の場とするために
-金沢在宅 NST 経口摂取相談会の挑戦-
小川医院(石川県金沢市) 小川 滋彦さん

【パネルディスカッション】

- ※多職種の「食べる」支援の実践報告
- ①薬剤師の活動
知命堂病院薬剤科長 武藤 浩司さん
- ②新潟県在宅栄養ケア活動
新潟県栄養士会十日町支部 蕪木 康子さん
- ③宅配食サービス 高齢者総合ケアセンターこぶし園
吉井 靖子さん
- ④訪問口腔ケアセンター
一般社団法人 上越歯科医師会 水野 吉広さん

【特別発言】

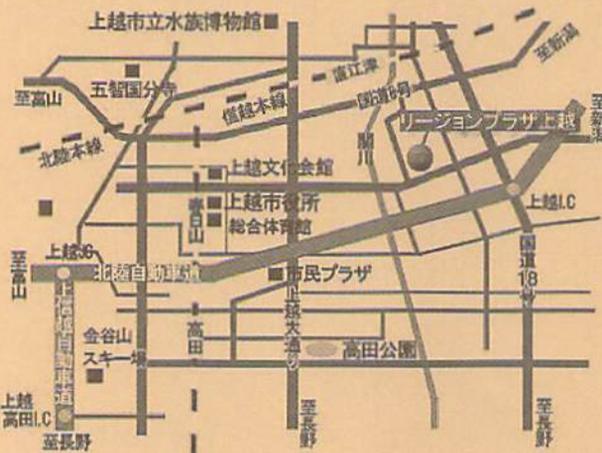
第19回全国の集い in 新潟 2013
大会長 黒岩 卓夫さん

お問い合わせ:上村医院
新保 TEL:025-792-0995
HP: <http://homecare-niigata2013.geo.jp/>

主催:新潟県在宅ケアを考える会(会長:黒岩卓夫 事務局長:上村伯人)
NPO 法人在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク(会長:奇原 実)

会場案内図

〒942-0063 新潟県上越市下門前 446-2 TEL:025-544-2122



北陸自動車道:上越インターチェンジから3分



風の萌

2013年5月30日発行(第022号)

頒 価:1部50円 会員は無料

- ◆ 発行 特定非営利活動法人(NPO)
在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク

TEL:052-848-8800 FAX:052-848-8801

<http://www.home-care.ne.jp/net/> E-mail:zenkokonet@home-care.ne.jp
〒458-0007 愛知県名古屋市緑区菟山3-119 カーサフクシマC-32号

- ◆ 編集「風の萌」編集委員

〇〇〇〇編集後記〇〇〇〇

新緑の美しい季節となりました。今年の春は荒れ模様の日が多いですが、少しずつ天気は安定してきているのではないのでしょうか。

さて、9月の新潟大会に向けて、募集要項が發送され、実践交流会演題募集の受け付けも始まりました。皆様のご参加をお待ちしております。

(東京事務局)